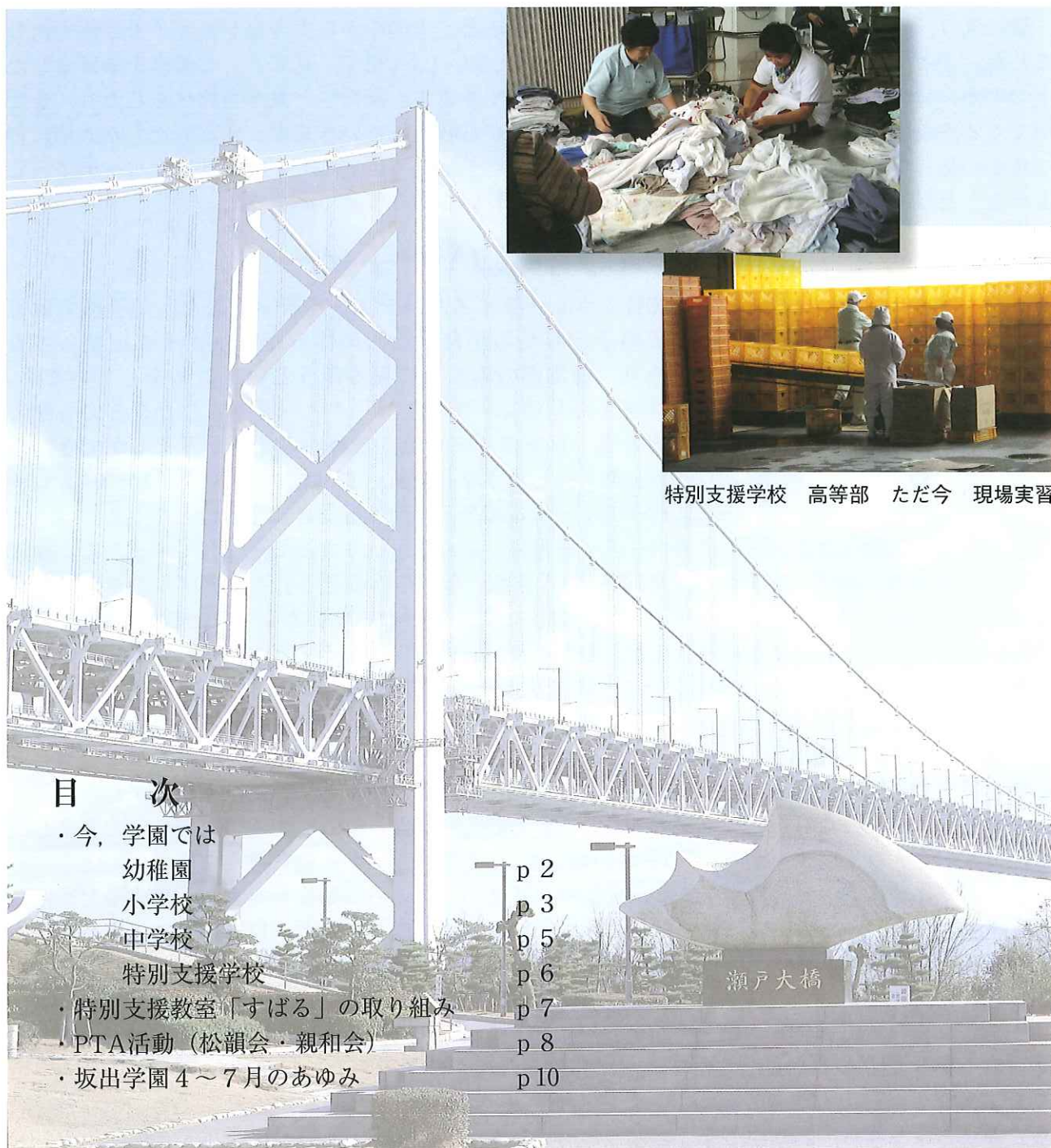


香川大学教育学部

附属坂出学園だより

第30号

2008.7



特別支援学校 高等部 ただ今 現場実習

目次

- ・今、学園では
 - 幼稚園 p 2
 - 小学校 p 3
 - 中学校 p 5
 - 特別支援学校 p 6
- ・特別支援教室「すばる」の取り組み p 7
- ・PTA活動（松韻会・親和会） p 8
- ・坂出学園 4～7月のあゆみ p 10

大きなおいものがごろごろ

今年の3月、青組の子どもたちが園庭の畑に、ジャガイモを植えました。子どもたちは生長を楽しみにしていて、朝、登園するとペットボトルに水を入れてお水をやりにいたり、遊びの合間に見に行ったりしていました。そんな子どもたちの世話もあり、ジャガイモは順調に生長し、大きな葉っぱを茂らせ、送り迎えに来られた保護者の方が「すごく大きいですね」と感心するほどです。「先生、いつになったらできるん？」と子どもたちは待ちきれない様子。花が咲き終わり、葉っぱが枯れ始めると、地面近くにおいものが少し見えてきて、「おいものが出てきとる」と子どもたちは嬉しそうに報告しにやってきます。6月に入り、畑に詳しい保護者の方が「もう、掘っても大丈夫ですよ」とおっしゃってくださり、6月6日に、ジャガイモを掘ることになりました。



畑に入り、いよいよジャガイモ掘り。茎を引っ張ると、土の中から大きなジャガイモが顔を出しました。子どもたちはたちまち笑顔になり、「わ～大きい!」「見て、見て!」と歓声をあげました。土の中からは次々に大きなジャガイモがごろごろ出てきます。友だちと大きさ比べをしたり、まだ出てくるかなとさらに土を掘ったり、目を輝かせながら収穫していきます。子どもたちが大切に育てたかいあって大豊作。子どもたちもとても満足し、「これ（ジャガイモ）でカレーパーティーしような」と早くも次のカレーライスパーティーへと思いを膨らませていました。

がんばったよ、かしーライスパーティー



6月20日、カレーライスパーティーを行いました。幼稚園では毎年、青組の子どもたちが自分たちの作ったジャガイモを使ってカレーを作り、幼稚園のみんなに振る舞うということをしています。今年の青組さんもカレーライスパーティーをすることをとても楽しみにしていて、ジャガイモを植える時から「ジャガイモができたらかレーパーティーしような」と話していて、収穫後も「いつ、カレーライスパーティーするん？」と何度も聞きにくるほどでした。

そんな待ちに待ったカレーライスパーティー当日。みんな、はりきって登園して来ました。頭にバンダナを巻き、エプロンをつけ、準備万端。「さあ、今から作るぞ!」とテーブルのまわりに集まって来ました。「どんなカレーが作りたい?」と聞くと「おいしいカレー」「赤組さんや、黄組さんが喜んでくれるようなカレー」など、それぞれの思いを口にする子どもたち。いよいよカレー作り開始です。自分たちが育てたジャガイモを大事そうに抱え、丁寧に洗っている子。ジャガイモとにらめっこしながら皮むき器で真剣に皮をむいている子。「涙が出る」と言いながらタマネギを切っている子。一人ひとりががんばり、みんなで力を合わせたおかげでたくさんあった野菜も全部切り終えることができました。煮込み始めると気になるのか何度も鍋の様子を見に来たり、鍋をかき混ぜたり、自分たちのカレーができるのをわくわくしながら待っているのが伝わってきました。最後にルーを入れて出来上がり。「わーいい匂い」「早く食べたい」と嬉しそうな様子。

リズム室に幼稚園のみんなが集まり、カレーライスパーティーの始まりです。青組の子どもたちが赤組さんや黄組さんのお弁当箱を持ってきて、つぎ分け、配りました。自分より先に小さい子のお弁当箱を大事そうに抱えて、ついであげている姿や、自分たちが作ったんだと誇らしげに運んでいる姿を見て、やっぱり幼稚園のお兄さんお姉さんだなと感じました。青組さんのカレーはとても好評で、おいしそうに食べている姿や何度もおかわりをする子どもたちの姿がたくさん見られました。きっと青組さんが大切に育てたジャガイモを使い、一生懸命作ったカレーだったからでしょうね。青組のみなさん、ありがとう。とってもおいしかったです。



「思考力」をはぐくむ学びの創造(3年次)

—脳神経科学研究との連携から新しい時代の学びにせまる—

附属坂出小学校では、「思考力」育成に必要だと考える思考様式を長期記憶化することのできる授業づくりをめざし、研究を続けています。

今年度は、これまで「潜在的に」用いられてきた思考様式を顕在化すること、さらには、1時間の学習過程の中で、学習者である子どもが思考様式を使って思考していることを自覚させること、つまり、メタ認知的な活動を組み込んだ授業づくりを行い、その効果を質的、量的に検証しています。

以下に、今学期実践しました授業の一端をご紹介します。

◆ ◆ ◆ ◆ ◆ 研究授業 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

6年
社会科

「正倉院の宝物」

やまうち ひでのり
山内 秀利

今、伝統や文化を尊重する学習の充実が求められています。そのためには、遺物の価値を見出す思考力と、宝には「自分の宝」「他人の宝」「みんなの宝」があるという認識、それぞれを尊重するべきだという判断力が必要です。そこで「正倉院の遺物の価値を問う学習」を提案しました。金、銀、財宝や希有な大きさを誇る古墳や大仏ではなく原材料が紙やガラスや布である正倉院の遺物は、子どもにとって価値が見出しにくい物です。自分との関わりが見えない物は大切にしないという風潮の中、こういった子どもから遠い遺物こそ取り上げる価値があると考えたのです。そこで、めざす「思考力」を「正倉院御物が1250年もの間、使われた当時のままの姿で残されている理由を時空間を広げ考える力」とし、そのために必要な思考様式を「関わる人を想像する」と設定し、実践を試みました。(土曜日に公開し広く県内外から多数のご参加をいただきました。)

実際の授業では、世界中の白瑠璃碗が出土品として現代に残されているのに対して、正倉院の白瑠璃碗が、ありのままの姿で1250年間も保存されていたことに問いをもち、日本人が何に値打ちを感じてきたのかを話し合いました。子どもたちは「碗に、作った人の苦勞、技術の高さを感じたのでは」「碗を運んだ遣唐使は命がけだったからでは」等と遺物に関わった人を想像し、その価値を御物と宝物を結ぶ関係図に表していきました。その上で、どのような考え方をしたから新しい価値を見出すことができたのかを問うメタ認知的活動を通し、思考様式の有用性を実感していきました。



3年
体育科

「つないでねらえコロコロボール」

みやざき あきら
宮崎 彰

これまで中学年のゴール型のゲームでは、1チーム4～5人でパスやドリブル、シュートをしながらゲームを行うことが多く見られました。しかしながらこの段階の子どもにとって、攻守が入り乱れた状態でパスやドリブルを上手くすることは大変難しいものがあります。その上チームで作戦を立て実行するとなれば、作戦の成否は思考の結果よりも技能の結果によるものが多くありました。それ故、簡単な作戦を立てゲームを工夫するという「思考力」が育ちにくかったのかもしれない。そこで、「1チーム2人」「ボールを持った者はドリブルを禁止」「全てボールを転がしてシュートかパス」と、攻撃するために必要な部分だけを取り出し、動きの工夫を考えるゲーム「ペアコロコロボール」を教材とし、授業を提案しました。本教材を用いることで、「パスやシュートにつながる動きを工夫する力」という「思考力」を育成する際に必要になる「ゴールや敵、味方の位置を見る」という思考様式の長期把持をねらったのです。

実際の授業では、まず前時パスをつなげる作戦がうまくいかなかったチームのゲームを全員で見ました。子どもたちからは「ゴールをねらって!」「〇〇さんが空いているよ!」等の声が多く聞かれました。その後、ゲームをビデオで振り返りながら、プレーをしている人がゲーム中に何を考えたり、どこを見ていたりしたかを問うメタ認知的活動を通して、先述した思考様式を全員で見出していきました。



6月13日(金) 研究発表大会 県内外から600名参加

テーマ

「生きること」と「学ぶこと」の統合をめざして

学びの拡充を促すシャトル学習の開発

6月13日(金)、平成20年度附属坂出中学校教育研究発表会が盛大に行われました。

当日は、県内外の小・中・高、大学及び教育関係機関より600名を超える参会者をお迎えして、本校の教育実践をご覧いただくとともに、これまで取り組んで参りました研究を広く全国に発信することができました。

今回の研究発表会では、「生きること」と「学ぶこと」の統合をめざし、学びの意味化を促す学習方法として、子どもの中にできる概念をどう形成していくかの研究、異学年合同の発展的な学習の教育システム「シャトル学習」の開発の2点について提案いたしました。

学びの意味化

平成18年度の研究大会から継続して研究してきた「学びの『意味化』を促す学習」について、今年度は「意味化の授業」に加え、それをさらに充実させるための「概念形成」に着目して、授業研究に取り組み、大会当日には6教科で「概念形成」、3教科で「意味化」の授業を公開しました。

学びの意味をより実感するためには、それまでの学習における概念形成が正確になされておかねばなりません。単元において生徒の概念がどのように形成されているのか、また教師はどのように概念形成をしかけていくのかについて具体的な単元構築および授業実践を提案しました。

**シャトル学習**

平成18年度～20年度文部科学省研究開発指定を受け、研究を続けてきた異学年合同による発展的選択学習「シャトル学習」の授業公開を行いました。研究最終年次となる今年度は、1年生から3年生までの3学年がともに学び、学習を通して自らの見方や考え方を広げ、さらに自分の学年の学習にも生かすことをめざし、各教科で実践を試みました。生徒は普段の学習とは違った環境の中で、生き生きと学習に取り組みました。





シンポジウム

「個の伸長を促す発展的な学習のあり方」をテーマとし、シンポジストに松村暢隆先生（関西大学教授）、田尾 勝先生（琴平中学校長）、片山則夫先生（県立高瀬のぞみが丘中学校教諭）、半山章人本校研究主任、司会者に七條正典先生（香川大学教授）をお招きして、さまざまな視点から発展的な学習のあり方についての発表をいただきました。

本校のシャトル学習の実践の意義や今後の発展性などについてもご示唆いただき、意義あるものになりました。



講演

国立青少年教育振興機構理事長 田中壮一郎先生より「新しい教育基本法と教育改革」という演題でご講演をいただきました。教育基本法の改正に中心として関わってこられたことから、これからの教育に求められるもの、また大切にしていかなければならないことなどについて、「読書、手伝い、外遊び」など具体的な内容をもとにお話しいただきました。子どもたちにとって学習の基盤となる部分の重要性を改めて考えさせられ、今後の教育研究においても、まず子どもの現状を見つめることが第一歩となると感じました。



研究大会を終えて…

各教科の公開授業後には、参会者の先生方からのご意見をいただいたり、学びの意味を問うことの意義について賛同の声も寄せられたり、私たちの大きな励みともなりました。これも本校生徒一人一人の頑張り、各校園の諸先生方、そして保護者の皆様方のご理解があつてのことと深く感謝し、今後もこの実践を坂出から全国に発信していきたいと思っております。ありがとうございました。

本校は特別支援教育のセンター的機能を担っています。

地域の保・幼、小・中学校に出向いて子どもたちや先生方のサポートをしています。

- 巡回相談：普通学級在籍の発達障害児の教育相談
 - 連携訪問：特別支援学級在籍児の教育相談
 - 要請訪問：香小中研の授業研究の指導・検査の依頼・現職教育での講演など
- } 指導法のアドバイス・支援ツールの紹介・
} 現職教育での講演・検査の実施と分析など

●地域の教育機関からのニーズに応えようと、教育相談部が中心になって日々努力しています。

各校園から「専門的な目で客観的に授業を参観してもらい、アドバイスがいただきました。児童の実態を把握した専門的技法の高さを感じました。これからも連携を取り合い児童にとってよりよい環境づくりをしたいと考えています」などの感想もいただきました。



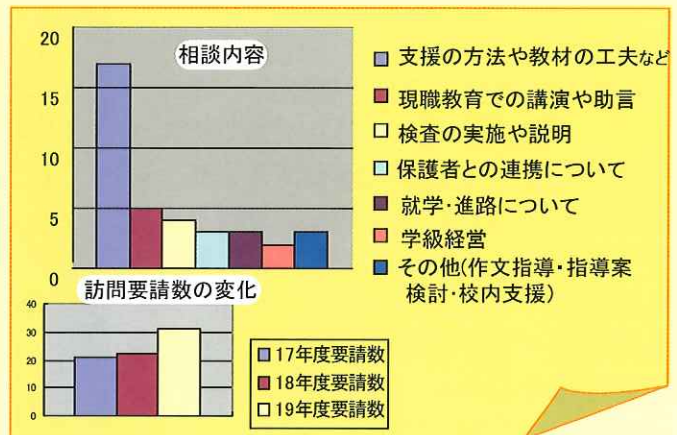
H19年度附属特別支援学校の相談実績

訪問内訳

連携訪問や要請による訪問	18
巡回相談	3
その他	13
計	34

訪問学校種別

保育園	2
幼稚園	5
小学校	12
中学校	4
計	23



年々、教育相談の内容も多岐になったり、緊急の相談や要請指導回数も増えたりしており、より具体的なアドバイスができるように、**来てもらうセンター的機能**も大いに発揮しています。

特別支援教育相談事業「やまもも教室」

対象：地域の育ちに遅れのある子ども（就学前～小学校まで）とその保護者、育ちに遅れのある子どもを担任されている先生

実施日：H20年4月26日（土）より年間12回 9：30～11：30

意義：育ちに遅れのある子どもと子どもにかかわる方たちのサポート

主な内容・(子ども) 音楽活動や体育遊び等の集団遊び

・(保護者、先生方) 講演等の研修会、個別相談、各種検査の実施



支援ツールについて(香大・武蔵先生)

土曜日及び日曜日の実施により、保護者、子どもたち、先生方が利用しやすい会になっています。また研修や相談・検査など活動内容も盛りだくさんで、多様なニーズに応えることができるように工夫しています。さらに、学生や指導者側も障害のある子どもたちと集団遊びなどをするなかで、特性を知り、よりよいかかわり方を学ぶことができているようです。大学の先生方や学生の協力を得ることで、毎回充実した時間を設定することができます。



自由遊び(魚釣りゲーム)

その他 ○ 体験入学や学校見学など

○ 公開授業の実施 年3回 6月17日(火)・9月11日(木)・2月7日(土)

20年度 特別支援教室すばるにおける 研修事業について

1. 香川大学大学院に特別支援教育コーディネーター専修講座が設置され、すばるで実習が開始



今年度より、本講座が設置され、県内の現職の先生方が大学院生としてすばるへ実習に来ることになりました。そのため、大学院生の部屋の改修と心理検査室の改修をおこないました。

そして、8名の院生が、週2日すばるへ来て、子どもの個別指導に参加するようになりました。現職の先生方ではありますが、発達障害のある子どもの個別指導は初めてのことなので、事前研修を実施したり、個別指導のスーパーバイズを大学の先生方が、毎回実施したりしています。

2. 香川県教育委員会派遣の内地留学生の研修

この事業は、16年度から始まり今年で5年目になります。毎年2名の現職教員が派遣されています。すばるでの研修は、発達障害についての知識を深め、各種心理検査の実施法を理解し、個別指導の実習を通して実際の子どものつまずきから、支援の方法を見つけ出していくことをねらいとしています。そして、保護者支援や担任支援についても経験を深め、有効なアドバイスができるように研修を積んでいます。



3. 「第2回 特別支援教育研究大会」が、本年8月7日(木)に香川大学内において開催予定

大学教育学部と県教育委員会とが主催し、上記大会が開催される予定です。以下に概要をお知らせいたします。

8:30～9:00 講堂にて受付

9:00～9:20 開会式

9:30～12:00 全体講演会「特別支援教育を香川に」 講師:香川大学教授 繪内 利啓 先生

12:00～13:30 昼食

13:30～15:00 分科会1

A(特別支援教育を推進し定着させるためには) B(就学前における支援のあり方を探る)

C(附属特別支援学校のセンター的役割)

D(言語的能力の発達レベルチェックテストの開発)

15:30～17:00 分科会2

E(地域における各専門機関と学校園とのネットワークづくり)

F(学校園における年齢段階を考慮した社会性の指導のための実態把握の試み)

G(高等学校における取り組み) H(数概念の発達レベルチェックテストの開発)

幼稚園より

附属幼稚園では先生と保護者の協力のもと、毎月園児のお誕生会が開かれています。

年少の黄組から年長の青組までの子どもたち全員と、先生、誕生児の保護者が一堂に会してお祝いを行います。

先生から園児へのプレゼントはバースディカードです。毎月先生が手づくりで素敵なカードを作ってくれています。また保護者から園児へは手づくりゲームのプレゼントです。“宝探し”や“スタンプラリー”、“魚釣りゲーム”など毎月保護者が企画して行っています。大盛況で、園児たちはみんな目を輝かせて喜んでいきます。

自分の誕生月のときに、おうちの人と幼稚園で共に時間を過ごせるのはとても貴重で、有意義なひとときになっています。



小学校より

今年も朝の通学時間に、津島外科交差点と滝上交差点で立碇を行っています。マナーの悪い車や危なっかしく交差点を渡る子どももいましたが、ほとんどの子どもたちが元気よく挨拶をし、整然と通学しています。道を間違えた1年生に親切に道を教えてあげる中学生のほほえましい姿もありました。

また、5月17日に1年生とその保護者を対象にしたウェルカムパーティーを実施し、親子参加のゲームや担任の先生をまじえた学級懇談会を行いました。1年生の保護者にとっては、お互いの顔を覚えるよい機会になったと思います。



中学校より

7月2日に、「夏季の熱中症予防と朝食の重要性」というテーマで親子セミナーが行われました。大塚アカデミーの南井講師から、正しい水分補給と朝食の大切さについてわかりやすく説明をしていただきました。その後、中学校多目的教室にて、保護者交流会を開きました。

保護者の皆様と中学校長・副校長・各学年団長の先生方を交えてアット・ホームな会になりました。不安なこと・わからないことに対して、学校側から丁寧な回答があったり、保護者同士で情報交換をしたり、有意義なPTA活動になったと思います。



特別支援学校より

親和会

親和会の活動をご紹介します!!

春は、 春季運動会のバザーや駐車場の草刈り
みんなで集まったの茶話会

夏は、 救急法の講習会、
プール開放やPTAスポーツ大会・バーベキュー大会

秋は、 卒業生の保護者の方と施設見学
府中湖水のフェスティバルにバザーを出店
学校祭である「ふれあい祭り」の
バザーや広告集め

冬は、 ボウリング大会

等、少ない人数ですが、子どもたちのためにみんな精一杯活動しています。

例年、松韻会の方々には、合同運動会や光のフェスティバルなどいろいろとご支援・ご協力いただき、感謝しています。

今年は、松韻会の活動にもっと参加・協力させていただき、絆を深めたいと考えています。



〈保護者・職員・児童生徒が協力し合った臨時駐車場の草刈〉

修学旅行

中学校では、4月10日(木)～14日(月)まで4泊5日の修学旅行に行ってきました。屋久島、知覧そして長崎に至るコースです。屋久島では、各自で選択したコースに分かれて活動し、世界遺産にも指定されている豊かな自然を満喫しました。知覧および長崎では、戦争の悲惨さ、命の尊さ、平和の大切さをあらためて感じさせられました。



香川掃除に学ぶ会



5月31日(土)、「香川掃除に学ぶ会」の方をお招きして、校内美化、特にトイレの掃除に取り組みました。いつの間にか熱中し、汚れも臭いもひどかった便器が、どんどんきれいになっていくことに感動を覚えました。掃除後、輪になって食事をし、お互いの努力をたたえ合いました。半日でしたが、本当に充実した時間を過ごすことができました。

中学校

「南極の水」の観察・体験学習

5月21日、国立極地研究所からの「南極の水」を香川大学学長より贈呈されました。南極勤務経験者による講話や理科教員による南極の映像・資料を用いたクイズ、「南極の水」が水の中で解ける時の音を確かめる実験等から、「南極の水」とともに南極観測や地球環境にも興味をもつことができました。



歯磨き指導

6月2日、穴吹医療カレッジの歯科衛生師及び学生18名による1年生の歯磨き指導がありました。ミュータンス菌の様子を分かりやすく劇で説明してもらった後、歯垢の染め出しで真っ赤になった箇所を磨き方を一人一人丁寧に教えてもらいました。



小学校

特別支援学校



雨でもバッチリ！体育館で元気いっぱいの春季運動会

5月11日(日)は春季運動会でした。前日からあいにくの雨。運動場の状態が悪く、体育館での運動会となりました。しかしながら、体育館は在校生・卒業生・地域の人たち・附属中学校の友だち・保護者の方々が大勢参加していただき熱気でいっぱいでした。徒競走は残念ながらできませんでしたが、親子競技や交流種目はすべて行うことができました。保護者の方からは「こんなに近くで演技を見られてよかった」「体育館ならではの雰囲気の中、子どもたちの頑張りが感じられて素晴らしい」などたくさんのおほめの言葉をいただきました。

「みんなでおどろろ」は運動会恒例のプログラム。参加者みんなで手をつなぎ、体育館いっぱいに大きな友情の輪が広がりました。子どもたちもリズムに合わせて身体を動かす楽しさとともに、手をつないで、そして心もつなぐ喜びを感じてくれたと思います。子どもたちの最高の笑顔で締めくくれたことがなによりです。ご参加くださいました方々、本当にありがとうございました。



幼稚園

うめジュースづくり(青組)



幼稚園に梅の木が一本あるのを知っていますか？今年、例年以上にたわわに実っていました。匂うと桃のような甘い香り。そこで、青組は、うめジュース作りに初挑戦しました(6月16日)。

まず、長い棒で枝を揺すって、うめの実を落とします。ばらばらと落ちる実を拾ってきれいに洗い、フォークを刺して穴をあけ、最後に、びんの中にうめと氷砂糖を交互に入れて出来上がりです。後は10日間待つだけ…。楽しみで待ち遠しい10日間。自然の恵みのうめジュースは、もちろん黄組・赤組さんにもお裾分けしますよ。

電車ごっこ(赤組と黄組)

5月9日。電車で丸亀城に遠足に行きました。みんなで一緒に行くととても楽しかった赤組さんたち。ピニルテープを床に貼って線路を作り、段ボールの電車も作って走りました。ままごとコーナーでは、駅のお弁当も売ってましたね。黄組さんも、赤組の部屋に来て、一緒に電車に乗ったりお弁当をいただいたりして大喜びでしたね。とても楽しくて、進級児も入園児も一段と仲良くなりました。



編集後記

今年は雨にも恵まれ、強い日差しの中、プールに子どもたちの元気な歓声が満ちあふれています。今学期も様々な行事が行われましたが、6月の中学校の研究発表会では、県内外からたくさんの方々をお迎えし大いなる成果を上げることができました。

今年3月に新学習指導要領が公示されました。子どもたちの未来への健やかな成長のために附属坂出学園が、これからますます緊密な連携をとり、一丸となって精進していきたいと考えています。

皆様方のご協力、ご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

発行年月日：2008年7月18日

発行事務局：附属坂出小学校内

佐藤 美芽 (附属幼稚園)

横山 新二 三宅 永哲 (附属坂出小学校)

環 修 木谷 直充 (附属坂出中学校)

武田 光弘 榎尾由美子 (附属特別支援学校)